

高崎町文化財調査報告書

第 5 集

町内遺跡試掘調査

1994

宮崎県北諸県郡高崎町教育委員会

序

高崎町は、宮崎県の南西部にあり、緑豊かな町です。町内には、宮崎県指定の「高崎町古墳」をはじめとして、数多くの埋蔵文化財があります。

近年、町内でも開発事業などが行われていますが、これらの中には埋蔵文化財に影響を与えるものもあります。高崎町の歴史を語る埋蔵文化財を後世に残し、郷土の歴史を学ぶための資料とすることは、私たちの責任です。

今回、開発事業と埋蔵文化財保護行政の調整を円滑に行うため、町内で開発事業が予定されている地域の試掘調査を行いました。今後とも町内の埋蔵文化財の状態を明らかにし、歴史資料として整備するとともに、開発事業との調整を行ってまいります。

今回の調査が実施できましたのも、土地所有者の皆様をはじめ多くの方々のご理解とご協力をいただいた結果であると感謝いたします。

平成6年3月

高崎町教育委員会

教育長 岩切光明

例 言

1. 本書は、高崎町教育委員会が平成5年度に、文化庁及び宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した町内遺跡試掘調査の概要報告書である。

2. 調査は、高崎町教育委員会が主体となって実施した。

調査組織は、次のとおりである。

調査主体 高崎町教育委員会

教 育 長 岩 切 光 明 (平成5年7月13日より)

教育長職務代理者 名頭園 政 利 (平成5年7月12日まで)

社会教育課長 海老原 孝 幸

同 課 長 補 佐 山 崎 秀 樹

同 主 査 岩 下 待 子 (庶務担当)

同 主 事 山 岩 薫 (調査担当)

県文化課係長 面 高 哲 郎 (調査指導)

同 主 査 石 川 悦 雄 (調査指導)

3. 本書で使用した標高は、高崎町役場都市計画課が設置した基準点(T.P.)を使用した。

また、第3図の北は磁北を、第5図の北は座標北を表している。

4. 本書の執筆・編集は、山岩が行った。

5. 調査にあたっては、土地所有者並びに全国酪農協同組合連合会・高崎町役場都市計画課の協力を得た。

6. 出土遺物や調査の資料は、高崎町教育委員会で保管する。

目 次

1 高崎町の概要	1
2 政所第1・2遺跡	2
3 土地区画整理予定地	6

挿 図 目 次

第1図 試掘調査地点位置図	1
第2図 政所第1・2遺跡層序概略図	2
第3図 政所第1・2遺跡試掘坑配置図及び地形図	3
第4図 区画整理予定地層序図	6
第5図 区画整理予定地試掘坑配置図	7

図 版 目 次

図版1 政所第1・2遺跡調査地点近景	4
図版2 政所第1・2遺跡試掘坑10 遺構検出状態・層序	5
図版3 区画整理予定地航空写真	9
図版4 区画整理予定地(大字大牟田1915-4)近景・層序	10
図版5 区画整理予定地(大字大牟田1260-1)近景・層序	11
図版6 区画整理予定地(大字大牟田1259-2)近景・層序	12
図版7 区画整理予定地(大字大牟田1219-4)近景・層序	13
図版8 区画整理予定地(大字大牟田1289-15)層序・作業状況	14

1 高崎町の概要

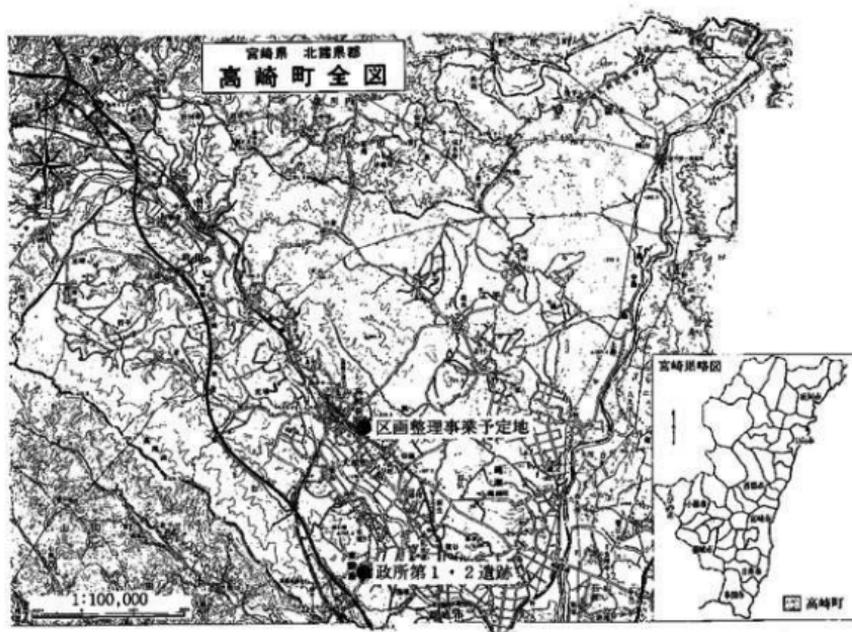
高崎町は宮崎県南西部の都城盆地北西部にある。標高300 m程度の山地や台地が面積の半数以上を占め、水田は標高120m～160mの位置に広がる。

平成2年度と3年度に実施した遺跡分布調査の結果、縄文時代から中世にかけての多数の遺物散布地が確認された。

代表的な遺跡は、縄文時代後期の集落跡が調査された栢木（栢木）遺跡・北迫遺跡（大字大牟田）、弥生時代中期の石蓋土墳墓が調査された朴木遺跡（大字江平）、同後期の日向型堅穴住居跡が調査された上野原遺跡、古墳時代の遺跡では塚原古墳群（大字江平）や地下式横穴墓、平安時代では越州窯青磁碗が出土した政所第2遺跡がある。中世では、町内全域に遺物の散布が認められ、高崎城を初めとして、多くの山城が築かれる。

〈参考文献〉

高崎町史編纂委員会『高崎町史』1990



第1図 試掘調査地点位置図

2 政所第1・2遺跡

(1) 調査に至る経緯

平成5年1月に全国酪農業協同組合より当該地に「南九州酪農サービスセンター（仮称）」を建設したい旨の申し出があり、高崎町教育委員会と埋蔵文化財の取扱について協議を行った。当該地は周知の遺跡で、越州窯青磁碗が出土したことが知られており、地下遺構の残存が予想された。協議の結果、試掘調査を行い地下遺構の残存状態を確認したのちに、再度協議を行うことで合意した。

(2) 調査の概要

試掘調査は、工事予定地（大字東霧島913-1・914-1・916-1〜3・917-1・918・面積11,414㎡）を対象とした。

調査対象範囲内に、2m×2mの試掘坑を当初12ヵ所計画したが、調査の結果に合わせて補助坑を入れ結果的には14ヵ所の試掘坑を調査した。

調査は、平成6年5月17日～27日の間で行った。

(3) 調査の結果

① 基本的層序

基本的層序は、第I層：暗褐色土（耕作土）・第II層：黒褐色土・第III層：暗茶褐色土・第IV層：暗褐色土・第V層：暗褐色土（御池軽石混入）・第VI層：黄橙色軽石（御池軽石）である。

② 検出遺構

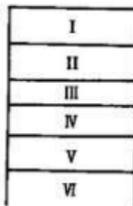
遺構は、試掘坑10で中世の柱穴と思われるPit2を第V層上面で検出したのみである。その他の試掘坑では、第VI層まで削平や整地が及んでおり、地下遺構は残存していない。

③ 出土遺物

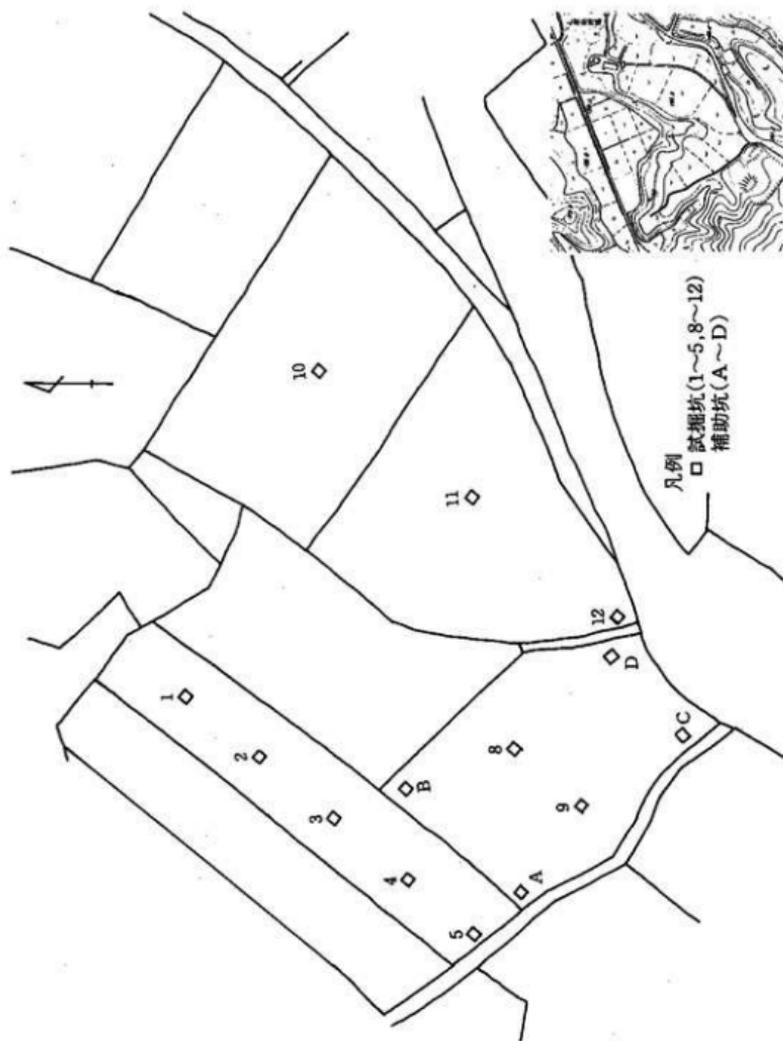
出土遺物は、土師器片10点・近世以降の陶磁器5点である。

注(1) 面高 哲郎 「高崎町東霧島出土の輸入陶磁器」

『宮崎考古第6集』1980



第2図 層序概略図
(1:40)



第3圖 政所第1・2遺跡試掘坑配置圖(1:1,000)及び地形圖(1:10,000)



政所第1・2遺跡 調査地点近景（南西より）



政所第1・2遺跡 調査地点近景（南より）



試掘坑10 遺構検出状態（南西より）



試掘坑10 東壁層序（南西より）

3 土地区画整理事業予定地

(1) 調査に至る経緯

高崎町役場都市計画課では、平成7年度事業開始を予定して総面積約33.7haを対象とする「高崎都市計画事業 新田地区土地区画整理事業」を計画している。当該地は、高崎町の中心部に位置し、現在宅地化が進行している。事業対象範囲は、周知の遺跡ではないが、南西に緩やかに傾斜する地形で、遺跡の存在が予想される。

当該地周辺は、近世の時期には島津藩主の直持山で御物山と言われていた⁵⁾。

(2) 調査の概要

調査は、耕作の関係で平成6年2月24日～3月18日までの限定された期間となった。

2m×2mの試掘坑をおよそ20～30m間隔で配置し、地下遺構の確認を行った(試掘坑総数32)。各試掘坑とも第VI層の御池軽石層が厚く堆積しており(2m以上)、崩落の危険があるため第VI層より下位の状態は大部分の試掘坑で不明である。調査終了後は、転圧を行い耕作に支障がないよう埋め戻した。

(3) 調査の結果

① 基本的層序

各試掘坑とも削平など深くまで及んでおらず、残存状態は良好である。基本的層序は、

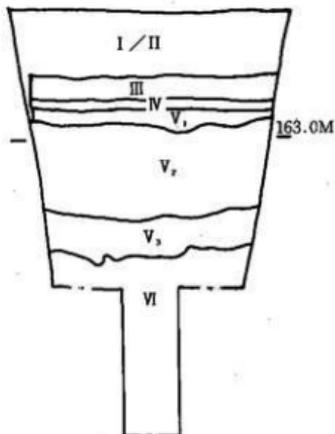
第I層：暗褐色土(耕作土)・第II層：暗褐色土(整地層)・第III層：暗茶褐色軽石(高原スコリア)・第IV層：黒褐色土(暗灰色火山灰を含む)・第V1層：黒褐色土(スコリアを含む)・第V2層：黒色～黒褐色土・第V3層：黒色～黒褐色土(第VI層を含む)・第VI層：黄褐色軽石(御池軽石)・第VII層：黒灰色粘質土・第VIII層：淡黄褐色土(赤色粒混入)・第IX層：黄褐色火山灰(アカホヤ)・第X層：暗灰色土・第XI層：暗茶褐色土である。

② 検出遺構

いずれの試掘坑での遺構は検出されていない。

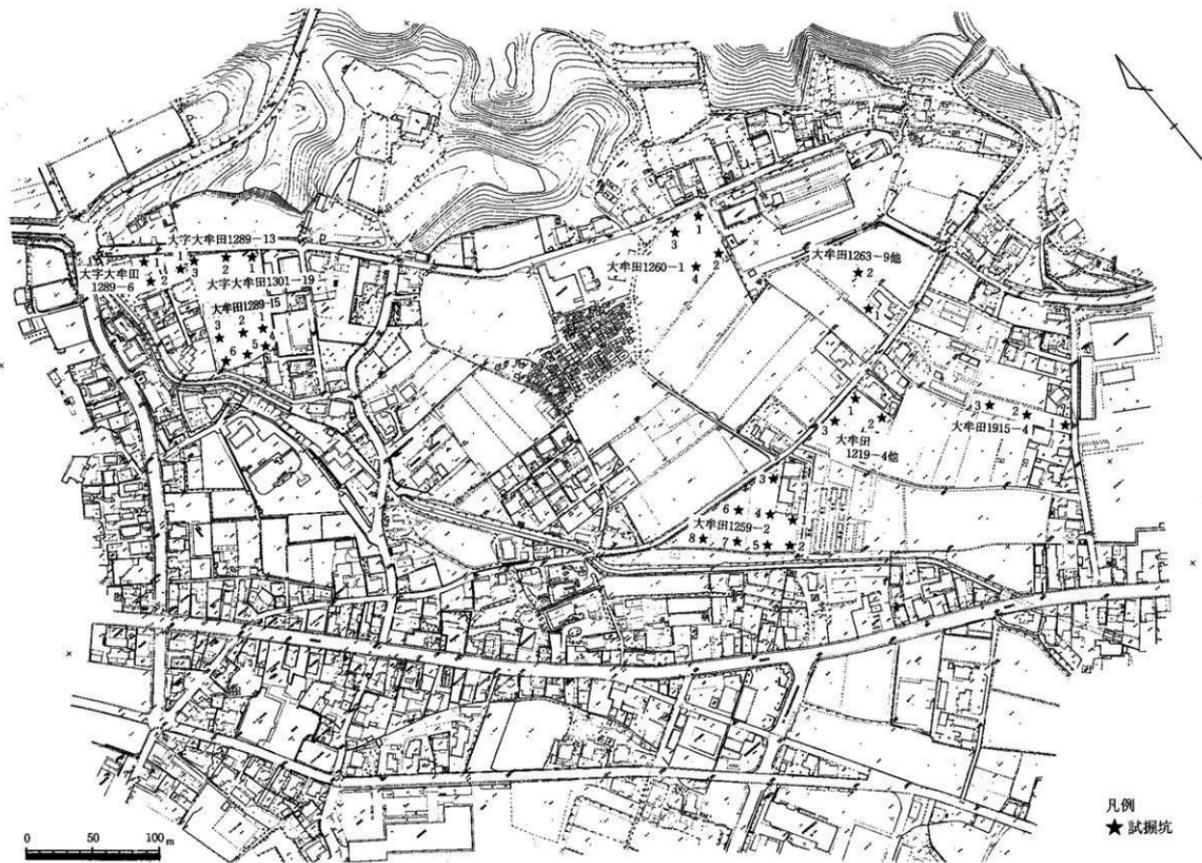
③ 出土遺物

整地層より、土師器が2点出土しただけである。



第4図 層序図
(大年田1280-1・試掘坑1 1:40)

注(1) 高崎町史編纂委員会『高崎町史』1990



第5圖 区画整理予定地内試掘坑配置圖(1:3,000)



図版
3

区画整理予定地航空写真（平成5年8月28日撮影 高崎町役場都市計画課提供）



調査地点近景 大字大牟田1915-4番地（南東より）



大字大牟田1915-4番地 試掘坑2 北壁層序（南より）



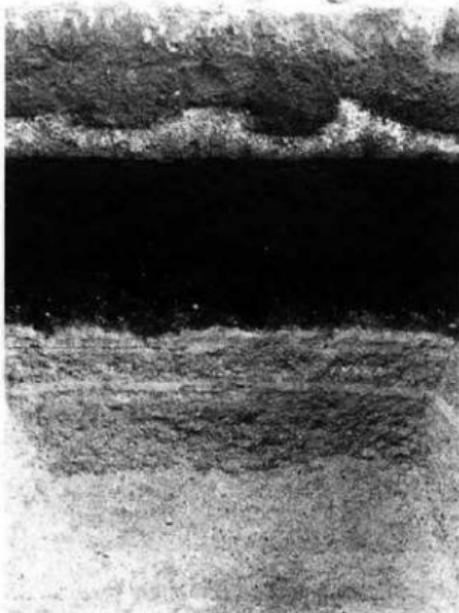
調査地点近景 大字大牟田1260-1番地（東より）



大字大牟田1260-1番地 試掘坑2 北壁層序（南より）



上：調査地点近景
大字大牟田1259-2番地
(西より)



下：大字大牟田1259-2番地
試掘坑5
北壁層序(南西より)



調査地点近景 大字大牟田1219-4番地他（西より）



大字大牟田1219-4番地他 試掘坑1 東壁層序（西より）



大字大牟田1289-15番地 試掘坑3 北壁層序(南西より)



大字大牟田1289-15番地 試掘坑1 作業状況(東より)

高崎町文化財調査報告書

第 5 集

町内遺跡試掘調査

発行年月日 平成 6 年 3 月 31 日

発 行 高崎町教育委員会

印 刷 長 崎 印 刷